

＜英国栈橋調査の余録＞ アイアン・ブリッジ (The Iron Bridge)

2015 年調査 (執筆担当 布施谷 寛)

セヴァーン川に世界で初めて鉄橋として架けられたコールブルックデール橋は、敬意を込めて、通称アイアン・ブリッジと呼ばれている。主に製鉄の発展で産業革命を先導した



とされるコールブルックデール地域のセヴァーン川が形作ったセヴァーン峡谷地域一帯には、この橋を中心として兩岸 4.8km に産業遺跡と博物館が点在しており、「アイアンブリッジ峡谷」として世界遺産に登録されている。また、橋梁としては建造 200 年を記念してアメリカ土木学会が国際歴史土木遺産として顕彰している。

イギリスでは、17世紀に森林資源の不足が深刻になって、木炭の代替としてこの地においてコークスによる製鉄が実用化され、各地に広まった。「コールブルックデール橋」は、建築家のトーマス・プリチャードによって設計され、地元の製鉄業者のエイブラハム・ダービーによって施工された。この橋は、鉄や石炭、石灰石などを川の対岸へ輸送するために、渡し船の代替として、1779年に竣工しているが、現在は橋を保存するために歩行者専用になっている。

今回、ポンテカサルステ水路橋から廻ったので、到着が昼頃になり、昼食は例によってあまり時間もないので、サンドイッチとビールということになった。普段そんなに多くの客がくるところではなかったのか、サンドイッチも材料が不足して注文と違うものが出てきたが、小雨に煙るセヴァーン川を眺めながら飲んだビールは（長い間冷蔵庫に入ったままになっていたと推測）よく冷えていて、とてもおいしかった。

<完>

